

学校体育同志会・健康教育分科会

今が旬！ 新型コロナ

こんなときに行った健康教育・対話の授業 コロナ禍をどう考える？

学校が混乱の中、再開されました。衛生管理と時数確保が叫ばれ、子どもたちの心は置き去りにされているような気がします。さて、6月5日、東京支部の学習会が、オンライン会議を利用して、大阪支部の上野山さんを招き、「**こんなときに行った健康教育・対話の授業 コロナ禍をどう考える？**」というテーマで、開かれました。参加者の多くが、「もっと詳しく上野山実践を聞きたい、コロナの授業を自分なりに考えてみたい」と強く思いました。今回その思いを受け、健康教育分科会で話し合い、「大学生に行った上野山実践をより詳しく学び、自分なりのコロナの授業ができるように学習しよう」という内容で、4日間の連続学習会を開催することにしました。また、この実践に深くかかわった榊原さんにもいろいろお話を伺いたいと考えています。

提案者 上野山 小百合さん 榊原 義夫さん

日時：2020年 6月19日（金）20日（土）

26日（金）27日（土）

20:00～22:00

場所：ZOOM オンライン会議

※申し込みはメールで上野山まで。uenoyama@5.zaq.jp

ID、パスワードはメールでお送りします。会員ではない方もお気軽にどうぞ！



大学での休講が決まり、身近なコロナ問題のレポート作成を課題に→全員のレポートを配信→テーマに沿って掲示板で討論→補足するオンライン授業→感想は掲示板で交流→Zoom・グループワークで教材作り...という流れです。文字での対話中心で、学び合い、自信をつけ、自らの成長を実感した学生は「このコロナ時代に作ったみんなの指導案は、将来生徒に学んでほしい教材になる」と意欲満々で、「足で稼ぐ教材づくり」へと動き出しています。 上野山

上野山さんは、小学校高学年で行われたインフルエンザの授業と同じ発想で大学の授業を組み立てたそうです。だから、コロナの授業は、もちろん小学校でも可能です。小学校1年生から大学生までできる実践だと思えます。一緒に考えていきましょう。

今が旬！ 新型コロナ「対話の授業」健康教育実践を全国で

ー健康教育分科会全国オンライン学習会参加のみなさんへー

「全国一斉休校」後の3月ヴィゴツキー学習会で、「概念形成」の議論から未発の関大実践が話題になりました。「新型コロナやな！」。答えはひとつでした。私が強く推した理由をここに述べます。

何よりも今が旬。旬の健康問題は同志会「対話の授業」健康教育の教材価値が最も高いからです。これまで取り組まれた売春、労災、薬害エイズ、環境ホルモン、原発など、命にかかわる時事問題は、健康問題がすべて社会問題であることを誰の目にも明らかにしてくれます。健康教育を生存権の視座から捉える同志会の教科保健実践は、病気や災害の原因の原因が社会にあることを追究し、社会的理由の方から問題を解決する学力を育てることをめざします。

新型コロナ禍は国際化の時代が生んだパンデミックであり、薬のない強力な伝染病には現代でも社会的距離を保つしか方法がないという、命がけの歴史的体験です。社会性の極めて強いこの感染症はしかし、余りに大規模で、予防上も命と暮らしが相反する複雑さから、個人ではどうすることもできないという受動的気分が支配的で、国民は強い不安とストレスと共に、今も我慢を強いられています。

しかしそれは同時に学習テーマが全国民の「生活課題」であることを意味し、TVでは毎日たくさん医師が語り、情報アクセスでは若者にアドバンテージがあり、自粛生活で時間はたっぷりありました。子どもたちも時代社会を共有しており、ストレスも含め生活経験を通し相応の成長をしているでしょう。子ども・青年のポテンシャルはかつてなく高まっているはずです。

一時的に生じた稀有な条件は、同志会健康教育実践にとって「発達の最近接領域」（ヴィゴツキー）が極大となっていることを意味します。不安とストレスの社会状況も、能動性を発揮することで、時代と社会を主体的に生きるエキサイティングな機会に変わります。

新任講師の新時代の新テーマの実践が、大学も閉ざされた半信半疑の学生に、オンラインで始まりました。その間にもパンデミックのため政策が国際比較され、首相会見に医師が同席するようになり、日本的緊急事態宣言は地方自治への注目を集め、#検察庁法改正を許さないSNSの声が三権分立を守り、学習環境自体も成長発達していきました。勝手に中間総括しますが、科学的にできて政治的にできないことが多すぎる大人社会の複雑系から、学生たちは「対話の授業」を通してコロナ禍の「社会的理由」を様々に析出し、手応えある「だまされない学力」を形成し始めています。

一方で再開された学校は、時数確保とオンライン化促進で問題は解決との風潮にあり、大きく傷ついた子どもたちの心身の成長に、大人の経済活動のような「補償」さえ気付かれています。3密回避とソーシャルディスタンスの学校が、従前通りの発達を保障できるのかも未知のままです。

新型コロナを、ワクチンが出来るまで子どもたちを圧迫し続ける衛生管理に止めるのか、「身体的にも、精神的にも、社会的にも」正しく学ばれるべき学習テーマに正面から据えるのか。この問題は現場教師のwith Coronaへの発達の適応と創造的実践に拠ってしか解決できません。発達の喪失を異なる回路で取り戻すことを「昇華」と呼びます。コロナ禍が当事者でもあった子どもたちの深いところでどのような影響を及ぼし、しかし子どもたちの生命力はこれをどのように回復しつつあるのか、これからも続く子ども・親・教師のピンチを、どのように発達のチャンスに切り返していくのか、「昇華」の実践は、まだ続く「今」取り組まなければならない民主教育の正面の課題です。

ライブの実践を発信いただいている上野山新型コロナ関大実践に学生の成長ぶりを傾聴し、学生の最高到達点を全国の仲間へ「今」届け、子どもたちに「昇華」の道筋を全国で伐り拓いていきましょう。各地で子どもたちの声によって綴られる、多様な「対話の授業」が生み出されることを切に願います。

2020. 6. 19

学校体育研究同志会大阪支部健康教育プロジェクト「ヴィゴツキー学習会」発起人 榎原義夫